

関西大学通信

大阪府吹田市山手町3丁目
関西大学広報委員会

第45号
広報委員会発行



昭和48年度卒業式

新学士四、〇四五名誕生

大学院、学位記授与式も

昭和四十八年度卒業式は三月二十五日(月)に行われ、四、〇四五名の新学士が誕生する。



この日、新しく誕生して行く卒業生の数は、法学部第一、二、三部、第二部一九〇名、文学部第一、二、三部、第二部八九名、経済学部第一、二、三部、第二部二二〇名、商学部第一、二、三部、第二部一〇五名、社会学部第一、二、三部、第二部七八名、第一部二九名、工学部九四名である。

また、大学院においても三月二十七日(水)修士課程修士番号ならびに博士課程単位取得者に対し、それぞれ、学位記授与式が行われ、本年度の卒業生が在学中の間に、本年度、修士の学位を授与される者は、法学部三二名、文学部二二名、経済学部六名、商学部〇名、社会学部二名、工学部一〇八名の合計二二〇名である。また博士課程の単位取得者は、法学部三二名、文学部七名、経済学部四名、商学部二名、工学部一名で合計一六六名である。

昭和四十五年は、大学紛争の最も激しかった次の年にあたり、関大でもその事後処理として改革準備委員会「大学改革案第一号草案」の発表、学長選挙の実施案に対する賛否投票、広瀬学長の選出、新役員会の決定があり紛争以来の代りの姿が消え、前期試験も無事に終わり、学内は、ようやく正常に

本号の主な内容

- 1面 昭和四十八年度卒業式(新学士への言葉) 千里
- 2面 卒業生へ贈る言葉 川口教授ほか
- 3面 卒業生へ贈る言葉 川口教授ほか
- 4面 卒業生へ贈る言葉 川口教授ほか

新卒業生は丁度わが国の経済界の大きな転換期に社会に出て行くことになるが、若い新しい力で日本を、さらに世界を正しい方向に向けるよう頑張ってください。

本年もまた多数の関西大学卒業生が学業を完了し、四月には新しい入学生を迎えることになる。卒業生は実社会への新たな出発であり、入学生は大学における学問への新しい出発である。いずれも大いなる理念に向かって鋭意努力することの決意をもって出発していかれることである。

大学は日々その内容を容容して行く。ことに三月から四月にかけては、卒業生・入学生という学生諸君の関心における変動や、退職者・新入生という、教職員の間における変動といった、人的構成の面における変動が行われることとなる。

卒業生諸君を迎えて実社会もまた少しづつ容容をなすことになる。実社会は大学において、いろいろな知識や技術を修得した者を必要とする。いよいよそれ以上に学問を通じて合理的・科学的な思考方法と判断能力を身につけた者を必要としているわけである。

最近、民間企業のある方が問題となることが多い。企業の社会的責任という問題が論じられる。たゞ、かなりの年月が経過するが、この近年は公害・物価などの面で、企業のある方が各方面で問題となっている。企業が営利団体であるとは否定できない。しかし企業も一般大衆と遊離しては存在できない。その意味では大衆と遊離した、企業の一時的な利益追求は、結局長

な目で見れば企業の利益にもならないわけである。企業関係者にも、大層の長い目で見た判断力が必要になってくる。卒業生諸君がこれから入っていく職場は、色々である。それら様々な問題をかかえている。それら新しい新しい実社会において、新陳代謝の原動力としての卒業生諸君の活躍が期待される。(M.H.)

卒業生諸君に贈る



学長 明石三郎

理想がかげ、着実勇敢に

わが関西大学は本日ここに四十年の新学士を世に送るわけである。まことに天下の偉業といふことができよう。しかも社会は諸君の到来を待ちうけている。まことに自出度いかきりであって、心から祝福申し上げる。

わが関西大学は本日ここに四十年の新学士を世に送るわけである。まことに天下の偉業といふことができよう。しかも社会は諸君の到来を待ちうけている。まことに自出度いかきりであって、心から祝福申し上げる。

「転換期の社会に 若い新しい力を」

この日、新しく誕生して行く卒業生の数は、法学部第一、二、三部、第二部一九〇名、文学部第一、二、三部、第二部八九名、経済学部第一、二、三部、第二部二二〇名、商学部第一、二、三部、第二部一〇五名、社会学部第一、二、三部、第二部七八名、第一部二九名、工学部九四名である。



矢口 季次郎

この稿を求められて、いよいよと、

感慨深い46年間の足あと

と、金学を合わせても四十名には達して、



増田 肇

捨てきれぬ漢学への道

年間にわたって、七、八年の間は、

学生の自愛と勤勉を期待



佐久間七郎左衛門

大学をまるとして

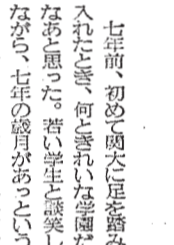
「大学を去るに当って」といって

「学生を去るに当って」といって

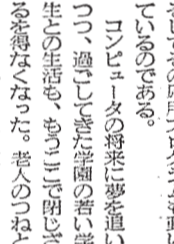
「学」の伝統の発展を望む



福本 憲之助



森 三郎



田中 賢一

若い学生に夢を託す

七年前、初めて関大に足を踏み

障壁を打破し前途に光を

「学生を去るに当って」といって

本では否定的には表現しては

昭和四十二年四月に、工芸部

本学へきたのは、文学部にド

「学」の伝統の発展を望む

「学」の伝統の発展を望む

「学」の伝統の発展を望む

キャンパス情報

矢口季次郎教授 退職記念特別講義

編集後記 昭和四十八年度